平成30年11月1日

No.183

さい議会だより

みなさんの健康を祝って乾杯！ (関連記事：12ページ)

【 平成３０年度佐井村敬老会　１０月１２日：アルサス 】

９月定例会の主な内容

☆ 平成２９年度の各会計決算を認定 ・・・・・ ２～３ページ

☆ 一般質問に２名登壇 ・・・・・・・・・・・・ ４～７ページ

☆ 夜間議会を開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９ページ

★ 「こども議会」を開催します ・・・・・・・・・ １０ページ

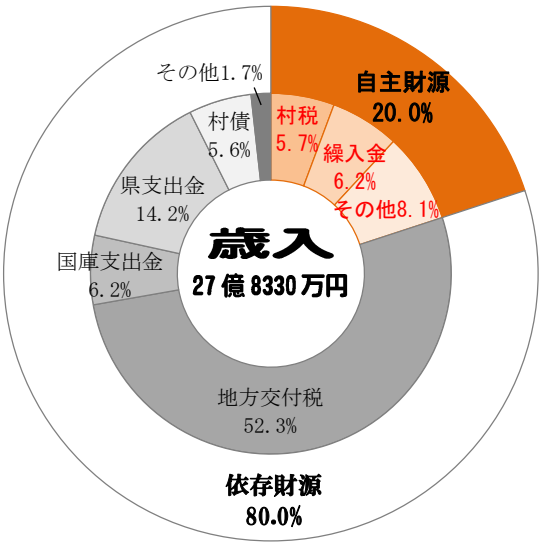
発行：佐井村議会　編集：議会広報編集委員会　〒039-4711　青森県下北郡佐井村大字佐井字糠森20　TEL0175-38-2111　FAX0175-38-2492

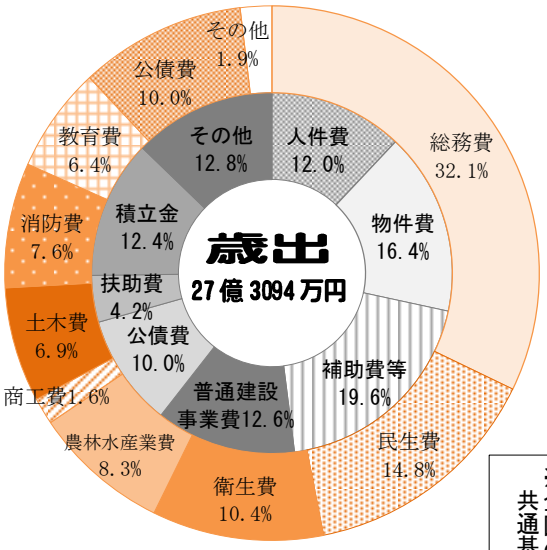
平成３０年第３回定例会は、９月４日から７日までの４日間の会期で行われました。
村長から報告２件・認定６件・補正予算案５件・同意１件の計１４件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

平成29年度の決算状況

会　　計		歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	うち基金へ積立てた額
一　　般		27 億 8330 万円	27 億 3094 万円	5235 万円	2618 万円
特別会計	簡易水道事業	7894 万円	7894 万円	0 円	0 円
	下水道事業	1 億 5979 万円	1 億 5979 万円	0 円	0 円
	国民健康保険	4 億　455 万円	3 億 8946 万円	1509 万円	754 万円
	介護保険	2 億 9326 万円	2 億 9326 万円	0 円	0 円
	後期高齢者医療	2376 万円	2376 万円	0 円	0 円
合　　計		**37 億 4362 万円**	**36 億 7617 万円**	**6744 万円**	**3372 万円**
平成 28 年度決算		36 億 9602 万円	35 億 9245 万円	1 億 356 万円	3219 万円

※単位未満の金額を省略して表記しています。ご了承ください。





平成29年度※普通会計の状況

※全国の地方公共団体の財政比較のための共通基準による統計上の会計区分

平成 28 年度と比較すると、歳入では地方債 7066 万 1 千円、国庫支出金 4523 万 4 千円の増加で、全体では 8134 万 6 千円の増額。歳出では総務費 2 億 6074 万 5 千円、農林水産業費 3196 万円、衛生費 1463 万 9 千円の増加で、全体では 1 億 2842 万 6 千円の増額となった。

歳入に占める割合は、自主財源が 0.7 ポイント減の 20.0 パーセント。依存財源が 0.7 ポイント増の 80.0 パーセントとなっており、医療・福祉等の社会保障関係経費の増加や老朽化が進む公共施設の更新等を見込むと、村財政状況は依然として厳しい状況にあるといえる。

平成29年度決算審査報告
なお一層の健全化を目指せ

佐井村代表監査委員　奥本　紀

平成29年度佐井村一般会計、各特別会計について、８月７日から９日の３日間にわたり慎重に審査を行なった。

歳入は地方交付税に大きく依存しているが、財政の基本をなす村税収入の収納事務をさらに充実・強化し、滞納者を一人でも多く解消し、新規の滞納者を出さないこと。そして、未納者に対する納付督促、差押え等の行政処分を強化し、収納率の向上になお一層努めること。

決算審査報告を行なう奥本代表監査委員

奨学資金の滞納は依然として高い水準にあるものの、滞納繰越分が２３４万５千円削減されている。引き続き借入本人をはじめ保証人等に対して適時、適切に督促を行ない、未納額の解消に励むこと。また、貸付金についても、固定化されている収入未済額の減少に努めること。

今後の財政運営も厳しいことから、歳出においてはより一層経費の節減に努め、最小で最大の効果を挙げるという財政の基本原則を確認し、限られた予算を効率的・効果的に活用するよう望む。

実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、いずれも赤字が存在せず、実質公債費比率については９・８パーセントと早期健全化基準を下回っている。さらに、将来負担比率は生じておらず、財政の健全性は保たれていると判断できる。また、簡易水道及び下水道事業特別会計に係る資金不足もないことから、経営の健全性も保たれていると判断できる。

今後においてもなお一層、財政健全化・経営健全化に向けた諸般の取り組みをしていただきたい。

平成30年度補正予算の概要

会　計		補正前	補正額	計
一般会計		24億6302万6千円	**5470万6千円**	25億2213万9千円
		○シィラインへの補助金の増額		401万3千円
		○診療施設外構工事費等の増額		3207万7千円
		○村道福浦川目線などの改良工事費の増額		327万6千円　など
特別会計	簡易水道	7558万6千円	**△ 182万2千円**	7376万4千円
		○県交付金事業（福浦地区）の不採択による減額など		
	下水道	1億5970万6千円	**△ 800万7千円**	1億5169万9千円
		○県交付金事業（福浦地区）の不採択による減額など		
	国民健康保険	3億1518万4千円	**1106万2千円**	3億2624万6千円
		○平成29年度療養給付費返還金の増額など		
	介護保険	2億8703万1千円	**3556万5千円**	3億2259万6千円
		○保険給付費の増額など		

田中岩男議員

中道地区を中心とした農業振興
農業用水路・農道の改良計画は
村長―計画した工事は今年度で完了となる

田中議員
老朽化している農業用水路や農道の改良計画は。

計画に基づき整備している

村　長
平成25年度から31年度までの下北北部地区中山間地域総合整備事業計画に基づき、整備等を実施している。

雑草などが生い茂った水路（中道地区）

今年度の中道地区農道の舗装工事をもって計画完了となるが、農業者からの要望があれば協議したい。

平成32年度以降の計画策定は

田中議員
平成32年度以降の計画は策定されるのか。

予定していない

産業建設課長
平成32年度以降の計画策定は予定していないが、計画にない箇所でも、平成31年度までの計画期間内であれば、追加要望は可能と思われる。

水利組合への支援は

田中議員
用水路の管理は水利組合が行っているが、組合員の減少や高齢化により、十分な活動ができていない。
以前は補助事業によって用水路の掃除や草刈りを行なっていたが、そのような支援はないのか。

資材の提供などは可能

村　長
青森県による多面的機能支払推進交付金事業により用水路の管理を行なっていたものと思うが、事業主体の水利組合が事務員の人手不足を理由に事業を終了した経緯がある。
水利組合の運営経費を村が支援することは難しいが、他の制度を利用した資材提供や職員による作業の支援は可能である。

補助事業はないか

田中議員
より良い補助事業等はないか。

秋晴れの日の稲刈り（中道地区）

事務局体制を確立してほしい

産業建設課長
まずは、事業主体である水利組合の事務局体制を確立していただきたい。出納事務や書類作成等に問題がなければ、有益な補助メニューはたくさんある。

休耕地の活用計画は

田中議員
村内の休耕地の利活用計画は。

情報発信に努める

村　長
農地中間管理機構によ

り、農地の賃借を仲介するなど情報発信に努めている。

畜産業の振興は

田中議員　地方創生事業により、畜産業を振興する考えは。

２軒しかなく事業化に不安

村　長　村内には畜産農家が２軒しかなく、漁師縁組事業のような形式を取った場合、受け入れや指導体制に不安がある。

乾燥中の牧草ロール
１年を通して牛のエサとなる

畜産業の振興で休耕地を牧草地に

田中議員　畜産業の振興により休耕地が牧草地になれば、村長の目指す美しい村づくりにもつながるのではないか。

利活用に取り組む

村　長　景観のみならず、美しい村づくりの取り組みとして、休耕地の利活用に取り組んでいく。

崩落防止・自然水利の確保
小原田川を改修せよ
村長―緊急性がなく、改修計画はない

田中議員　小原田川の改修は、毎年原田地区が要望している。実施できない理由は。

工事の採択基準に該当しない

村　長　急傾斜地対策事業や治山事業で改修工事を実施できないか検討したが、事業の採択基準に該当しないと判断した。

　また、調査の結果、緊急性はないと判断しているが、悪天候の際にはパトロールを強化することとしている。

腰掛八幡宮の横を流れる小原田川

大雨による崩落を危惧しているが

田中議員　川の法面は２メートルほど崩れており、大雨が降ってさらに崩れた場合、隣接する神社の鳥居や階段が倒壊するのではないかと危惧している。

緊急性がない

村　長　村内には小原田川と同様に危険と思われる場所が数箇所ある。それらを総合的に判断し、緊急性の高いものから整備している。

早急に対応すべき

田中議員　小原田川は自然水利（※）の役割も果たしているため、早急に対応すべきではないか。

改修計画はない

村　長　原田地区には現在、防火水槽10基、消火栓９基が整備されているため、自然水利としての改修は計画していない。

※自然水利　火災発生時、消火のために用いる水を溜めておく防火水槽、消火栓等を「人工水利」、河川、池、海等を「自然水利」という。

　東日本大震災の津波による火災発生時、岩手県山田町等では、がれき等で人工水利の使用が困難となったため、山からの沢水をせき止めた自然水利が消火活動に使用された。

一般質問

山口捷夫議員

津軽海峡文化館 アルサス「道の駅」登録を検討せよ

村長 ― 諸条件が整い次第、申請の協議・検討に入る

山口議員

アルサスを「道の駅」にするため、アルサス内のテナント等と話し合いを重ね、お互いの理解を深めるべきではないか。

「ちょこっと」ができるなど、今年４月にアルサスはリニューアルオープン

話し合いの場を持ちたい

村長

現在のところ、話し合いはしていない。

各テナントには、入居当時からの経緯（条件）等があるようなので、その対応も含め、体制づくりに向けた話し合いの場を持ちたい。

改修工事完了で条件が整うのでは

山口議員

アルサスの改修工事は来年3月22日が完成予定となっている。この改修工事によって道の駅登録への、ある程度の条件が整うと思われるが、申請の時期は検討しているか。

申請時期は未定

村長

以前から、条件が整った時に登録申請をしたいと申し上げている。

諸条件が整い次第登録申請の協議検討に入るため、具体的な申請時期は未定である。

新たな指定管理者募集するのか

山口議員

観光情報の提供、地元物産の販売、歴史・文化の発信等、道の駅が地域振興に果たす役割は大きい。

アルサスを道の駅にする場合、新たに指定管理者を募集する考えは。

近隣の情報を参考にする

村長

道の駅は、管理だけではなく企画・運営が重要と考える。

まだ検討前だが、近隣の道の駅の情報を参考に、万全を期したい。

平成 11 年にオープンした道の駅よこはま「菜の花プラザ」

道の駅しちのへ　リニューアル記念フリーマーケット

佐井村地域おこし協力隊

新任隊員２人の活躍を期待

村長 ― 共に佐井村の振興・発展に取り組む

山口議員

今年3月、地域おこし協力隊2人の任期が満了した。2人はそれぞれ起業し、村内外で活躍されており、大変喜ばしいことと感じている。

村では新たに協力隊員の募集を行なっていると聞くが、応募者の状況は。

2人の採用を内定

村長

前任者の任期満了を見込み、Ｓａｉツーリズム事業の担い手と魚の神経〆技術習得による販路開拓者を募集したが、平成28・29年度は応募者がなかった。

今年5月10日から募集を再開したところ、8月に2人の応募者があり、採用試験を行なった結果、2人を9月1日から採用することとした。

日本で最も美しい村関連のプロジェクトチームに参加している森田紘二郎さん（右）

歳入の見込みは

山口議員

国の制度を活用することにより、佐井村が得られる年間の歳入は。

国からの交付金は見込めない

村長

以前の協力隊員の場合は1人当たり年間４００万円程度が交付されていたが、新任2人は交付金の対象地外からの転入となったため、歳入は見込めない。

交付金を活用できなくても、佐井村の振興の一助を担っていただける人材であると考え、採用を決定した。

新任隊員はどのような方々か

山口議員

新任隊員2人は、どのような方々か。

30代男性1人と30代女性1人

村長

埼玉県出身でアメリカ等への留学とワイナリーに勤めた経験のある30代男性と、むつ市出身でイベント運営などの経験のある30代女性。お二人は夫婦である。

2人の勤務先は

山口議員

勤務先は、それぞれどこになるのか。

くるくる佐井村と佐井村漁協を予定

総合戦略課長

1人は、一般社団法人「くるくる佐井村」。もう1人は、青森市内で経験を積んでもらった後に佐井村漁業協同組合で活動してもらう予定である。

森田奈美子さん（左）はアルサス内の「くるくる佐井村」で活躍中

今後の活躍を期待する

山口議員

小さくともキラリと光る村、日本で最も美しい村づくりのため、お二人の今後の活躍を期待する。

意欲のある若者と共に取り組む

村長

意欲のある若者と共に手を携え、佐井村の振興・発展のために取り組んでいきたい。

追跡質問

鳥獣被害対策について（平成29年12月定例会）

広域的なハンター養成は

川畑議員　昨年度、公費による狩猟資格所有者（ハンター）が１人誕生したと報告を受けているが、当初は２人の計画であった。今年度の計画は。

２人の育成を目指している

村　長　２人の養成を目指し、今年度も１人受検しているが、試験に合格できなかった。

　幸い大間町に有資格者２人が新規登録されたということで、１人を推薦していただき、佐井村の有害鳥獣駆除にはハンター３人で対応することとしている。

罠に入ったクマを処分するハンター

広域的なハンター養成は

川畑議員　課題となっていたハンター養成への取り組みを評価する。

　以前から広域的に取り組むべきとしていたが、他市町村の動きはどうか。

むつ市が取り組んでいる

村　長　むつ市が、佐井村の事業を参考としたハンター養成に取り組んでいると伺っている。

捕獲は実施されているのか

サル捕獲用大型檻について（平成30年3月定例会）

川畑議員　矢越地区に設置しているニホンザル捕獲のための大型檻は、３月に２度の実績があるが、その後の実績はないと聞く。

　成果がなければ移動も検討するとしていたが、どうか。

農作物の収穫後捕獲を実施する

村　長　３月15日に３頭、３月21日に１頭捕獲の実績がある。

　現在は追い上げを重視しているため、檻を設置している畑の周辺にサルが来ない。

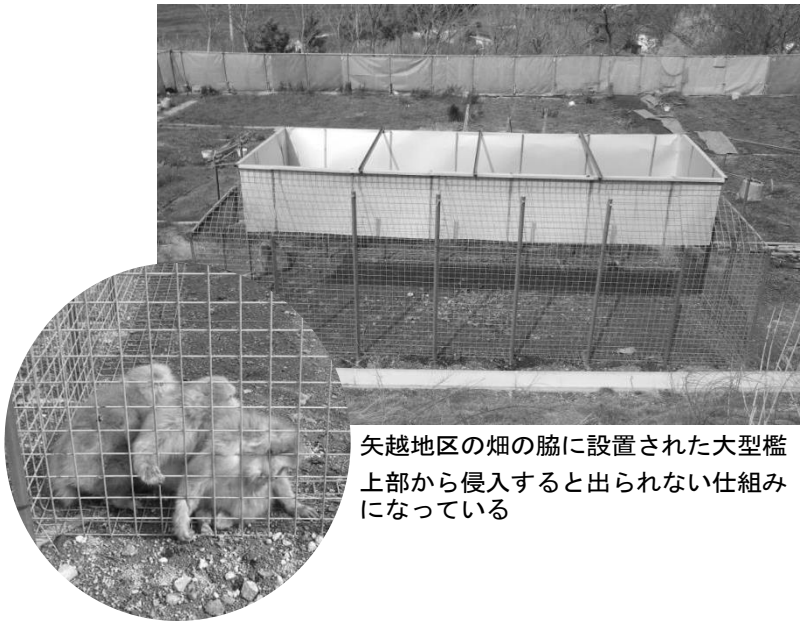
　農作物の収穫後、エサを交換するなどして誘導し、捕獲を実施したい。

捕獲は冬季に実施か

川畑議員　移動はせず、冬季の捕獲を目指すということか。

そのように計画している

村　長　そのように計画している。



矢越地区の畑の脇に設置された大型檻
上部から侵入すると出られない仕組みになっている

夜間議会

９月定例会１日目、９月４日（火）午後６時から夜間議会を開催し、２件の追跡質問と２議員による一般質問を行いました。

佐井村地区連合会（田中勝年会長）のみなさんをはじめ、28人の住民の方々に傍聴していただきました。

次回定例会は、12月上旬に開催予定です。日程が決まり次第ホームページ等でお知らせしますが、詳しくは議会事務局へお問合せください。

みなさんの議会傍聴をお待ちしています。

一般質問（夜間議会）アンケート

～ ご協力ありがとうございました ～

傍聴されたみなさんにアンケートをお願いしたところ、28人中20人から回答をいただきました。

【性別】
- 男　性　8人
- 女　性　2人
- 無回答　10人

【年齢】
- 30代　1人
- 40代　1人
- 50代　2人
- 60代　14人
- 70代　2人

●議会傍聴の経験は？
- 今回が初めて　2人
- 何回か傍聴　13人
- ほぼ毎回傍聴　5人

●日程を知ったのは？（複数回答）
- 村内放送　5人
- サイボード　12人
- ホームページ　1人
- その他　7人
  （地区連合会、議会だより臨時号等）

●議員の質問は？
- よく理解できた　1人
- 理解できた　4人
- あまり理解できなかった　13人
- 理解できなかった　2人

●村長の答弁は？
- よく理解できた　5人
- 理解できた　13人
- あまり理解できなかった　1人
- 無回答　1人

●議会の活動に関心は？
- とても関心がある　4人
- 関心がある　10人
- あまり関心がない　5人
- 関心がない　1人

●今後も傍聴したい？
- ぜひ傍聴したい　5人
- 傍聴したい　11人
- あまり傍聴したくない　3人
- 傍聴したくない　1人

※ご意見、ご要望※
- 議員の質問は、まとめて話してほしい。
- 分かりづらいので、最後まではっきり言ってほしい。
- 現状を質し、村の考えを引き出す格調高い一般質問を期待する。
- 議員は地域の活動にもっと積極的に参加すべき。

みなさんからのご意見・ご要望をもとに、より良い議会運営を目指します

再任

固定資産評価審査委員会 委員 大石 光範 さん

佐井村固定資産評価審査委員会委員 大石光範氏の任期が平成30年11月８日で満了することから、同氏を再任することに全会一致で同意しました。

大石光範さん（古佐井）

佐井村固定資産評価審査委員会 委員

【定数３・任期３年】

渋田 昌平 さん　任期 平成31年３月23日まで

滝本 一正 さん　任期 平成32年12月17日まで

大石 光範 さん　任期 平成33年11月８日まで

こども議会を開催します

次世代を担う子供たちが、議会制民主主義を実際に体験し、身近な問題について率直な意見や考え方を述べる機会をもつことで、社会参画の関心を高めることなどを目的に開催します。

今回は佐井中学校３年生 17 人が議員を務め、一般質問を行ないますので、ぜひ傍聴においでください。

１１月１２日（月）　午後１時３０分　　佐井村議会議事堂

議長　磯川（いそかわ） 颯汰（そうた）　　**副議長　石黒（いしぐろ） 穂乃花（ほのか）**

【１班】

１番 東出 美咲 議員　２番 渋谷 姫菜 議員
３番 畠中 小夏 議員　４番 樋口 美穂 議員

○佐井地区のごみ問題について
○海岸に漂着するゴミについて
○通学路・交通安全に係わる環境整備について

【２班】

５番 田畑 空 議員　６番 津田 怜 議員
７番 金沢 紫世 議員　８番 七戸 文寧 議員

○人生いきいき１００年時代を目指して
○冬場の運動不足解消について
○地産地消の取り組みについて
○佐井中学校農園の可能性について

【３班】

９番 長島 優輝 議員　10番 東出 太陽 議員
11番 木部亜寿香 議員　12番 須藤 恋那 議員

○鳥獣被害対策の取り組みについて
○児童・生徒の安全な学習について
○国際交流について
○日本で最も美しい村連合について

【４班】

13番 大石 大輝 議員　14番 横浜 太地 議員
15番 佐賀 名月 議員　16番 石黒穂乃花 議員
17番 磯川 颯汰 議員

○佐井村少年消防団の活動について
○防災対策について
○空き家対策について
○人口減少について

（注）議員の名前の前の番号は、当日の議席番号です

レポート

東海第２発電所 津波への備えを視察

派遣議員代表　議員　山口捷夫

９月20日、日本原子力発電㈱東海第２発電所を視察した。

日本原子力発電㈱は、日本で唯一の原子力専業の民間会社であり、昭和32年に茨城県東海村に設立されている。

１９６６（昭和41）年、日本で初めての商業用原子力発電所として稼働した東海発電所は、１９９８（平成10）年に運転を停止している。

原子力発電所の稼働・解体作業のノウハウは、各電力会社に応用してもらうとのことであった。

１９７８（昭和53）年に運転を開始した東海第２原子力発電所は、電源開発㈱が大間町に建設中の発電施設と同じタイプで、現在では主流となっている１１０万キロワットの沸騰水型原子炉（ＢＷＲ）で、今年11月に運転開始から40年を迎える。

現行法令では40年で運転期間が満了となることから、昨年、国に対し運転期間延長の申請を行なっていると伺ったが、その後、新規制基準に適合と決定されたようだ。

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を受け、新たな防潮堤の設置や津波に備えた対策が取られていた。

また、17年前に日本で初めて導入した乾式キャスクによる使用済み燃料の保存・冷却施設を見学することができた。

先日、大間原子力発電所の安全対策工事の開始時期が２年延長されることが報告されている。今回の視察で得た安全対策等を参考に、原子力発電所の安全性の確保等の議論を深めていきたい。

乾式キャスクの模型を用いた説明
日本原子力発電所㈱（茨城県東海村）

レポート

東芝京浜事業所 最新鋭の技術を実感

派遣議員代表　議員　田中岩男

９月21日、東芝エネルギーシステムズ㈱京浜事業所を視察した。

京浜事業所は、１９２５（大正14）年に設立され、エネルギー機器の設計・製造を行なう本工場とタービン工場とで構成されている。

国内外向けに原子力発電所や火力発電所のタービン、熱交換器などを製作しており、大間原子力発電所で使用される予定のタービン等も常に品質を確認しながら保管しているとのことであった。

原子力、火力のほか、地熱発電や水力発電にも取り組んでおり、水力発電では世界最大容量の可変速発電電動機を開発し、地球温暖化や大規模な電力需要に応えている。また、東日本大震災以降、原子力発電所の廃炉に向けた調査ロボットで建物内部を調査するなど貢献しているという。

見学させていただいた工場では、最新鋭の大型機械加工設備が導入されており、日本や海外から発注されたタービンやモーターが製作されていた。ちょうど小型のタービンが組み立てられており、作業員が１枚１枚丁寧に作業していた。

また、工場内はどこも整理整頓が成されており、作業員の安全に配慮されていると感じた。

企業として高品質な製品を製作し、省エネ活動を推進していること、我々がより快適で安全に暮らすため、生活に欠かすことのできない電気の安定供給に寄与していることなどに感銘を受けた。

東芝エネルギーシステムズ㈱
京浜事業所（神奈川県横浜市）

元気！で働く お年寄りを紹介

宮野直栄さん（97歳）　大佐井
「人前で歌うことが好き」

10月12日（金）、アルサスしおさいホールで開催された『平成30年度佐井村敬老会』。村内の75歳以上の方が１００人以上出席されましたが、最高齢は98歳の男性だそうです。

では、この方は2番目にご高齢ということになるのでしょうか。「今日も自転車に乗って来た」と話す、大正10年3月生まれ、97歳の宮野直栄さんにお話を伺いました。

みんなの顔が見たいからと、敬老会には毎年参加しているそうですが、宮野さんのカラオケを楽しみにしている方も多く、この日も司会者のリクエストに応え『下北半島』を熱唱。会場を盛り上げていました。

佐井村で生まれ、10人兄弟の中で育った宮野さんは、若いときは船大工として活躍していたそうです。

函館で仕事をしていた昭和16年、盛岡歩兵隊に入隊。満州、シンガポールなどに派兵され、昭和20年8月、イギリス領だったカールニコバル島（現インド領）で終戦を迎えました。

帰国するまで2～3年掛かったそうですが、無事に佐井村に戻ることができ、その後結婚。3男1女に恵まれました。

55歳まで船大工の仕事をし、その後、閉山になるまで佐井鉱山で働いたそうです。

ほぼ毎日、自宅からアルサスまでの道のりを、季節の移り変わりを感じながらのんびり自転車で散歩することが日課だそうですが、自転車に乗り続ける理由は「膝が痛くて、歩くより楽だから」。

自転車はいつから乗っているのかと聞くと、「小学生の頃からだい」と笑います。以前はバイクに乗っていましたが、免許を返納してから、また自転車に乗り始めたそうです。

自転車に乗ることが健康の秘訣なのかと聞いてみましたが、「関係ねぇな」と。

酒は飲まないし、煙草も吸わない。大病はしたことがないが、それが理由だとは思わないとのことで、やっぱり「特にねぇ。考えたこともねぇなぁ」と話し、颯爽と自転車に乗って帰って行かれました。

お花をいただきました

毎年参加している「敬老会」

また来年の敬老会で
お会いしましょう

「いつもの頼むの！」
店員さんとも顔なじみ

◇編集後記◇

今年も残り少なくなりましたが、最近の異常気象ともいえる状況から、さらに防災意識を高めていかなければならないと考えさせられる年となりました。

さて、9月議会は恒例の夜間議会を開催したところ、たくさんの皆様に傍聴いただきありがとうございました。

終了後のアンケートでは、様々なご意見を頂戴いたしました。

私たち議会は、皆様の貴重なご意見を真摯に受け止め、更なる努力の下、前進しなくてはなりません。

より良い村づくりのため、今後も皆様の思い、お声をお待ちしております。（根岸）

議会広報編集委員会
委員長　田中岩男
副委員長　山口捷夫
委員　宮川尚
委員　竹内典和
委員　根岸浩則